

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0970800678		
法人名	社会福祉法人くすの木会		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	栃木県小山市大字高橋128-1 (電話) 0285-39-1030		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年1月16日	評価確定日	平成20年3月11日

【情報提供票より】(平成20年1月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤2人(うち兼務1人), 非常勤7人, 常勤換算6.25人	

(2) 建物概要

建物構造	1階建ての1階部分		
------	-----------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,000円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費-25,000円 ・理美容代-実費 ・おむつ代-実費 ・その他-実費 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有(退所時に)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	月額	36,000円		

(4) 利用者の概要(平成20年1月5日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1		名	要介護2		3名	
要介護3		4名	要介護4		1名	
要介護5		1名	要支援2		名	
年齢	平均	84歳	最低	76歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	関医院、小山市民病院、海星歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人くすの木会が運営する当ホームは、田園が広がり周囲に林や小川が流れ四季の変化を漂わせる長閑な場所に位置する。法人全体でISOの認証を受けており、管理者はじめ職員は積極的なケアサービスの質の向上に努めている。「入居者も職員も笑顔のある生活」、「パーソンセンタードの実践」を心がけ、常に入居者を中心としながら、個性を大切に、感情豊かな交流を重ねている。年4回の食事会にも家族が積極的に参加したり、一泊旅行を実施したりしている。地域活動(映画鑑賞、絵手紙教室、運動会、保育所園児交流、管理者キャラバンメイトの講演等)に積極的に参加しながら地域とのつながりを大切にしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は運営推進会議で報告し、スタッフ会議で話しあったり、今後取り組む課題として参考になっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者が中心となって職員と話し合いながら取り組み、管理者が記入し、全員で確認した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、入居者家族、地域代表、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。入居者家族すべての方に参加を呼びかけている。家族から家族にできること(草むしり)等の協力をしたいとの声があったり、推進委員の増員、当ホーム5周年記念祭の予定など具体的な話し合いをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問の際には日常の暮らしぶりや健康状態を伝えている。年4回の食事会の際に、日常の写真、「きぬだより」等とともに暮らしぶりを報告している。ホームの相談、苦情等の窓口は重要事項説明書に明記している。買い物等は立替払いにし、家族の訪問時に報告している。家族との接点を多く持つような機会づくりをし、職員との馴染みの関係を築くことによって話しやすい環境づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩、買い物等で立ち話をしたり、花や野菜をいただいたり、ホームで作った物を差し上げたりして交流を深めている。「絹ふれあいの郷」でのイベント、神社のお祭り、運動会、絵手紙教室など、地域の活動に参加している。また年間を通して地元の保育所と交流を行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、「入居者も職員も笑顔のある生活」、「パーソンセンタードの実践」を心がけている。地域の中でその人らしく生活することを支え、常に入居者の立場に立ったサービスを提供し、尊厳、権利をまもることを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム玄関の見やすい所に掲示している。ISO認証事業所としての位置づけのもとに、朝、理念を唱和している。サービスの提供場面（言葉かけ、態度、記録等）においても理念に基づき、一人ひとりを大切にした支援に努めている様子がうかがえた。		
S					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「絹ふれあいの郷」でのイベント、神社のお祭り、運動会、絵手紙教室等に参加したりして、地域の人々との交流に取り組んでいる。また地元の保育所と年間を通して行ったり来たりの交流をしている。また、法人広報誌の「きぬだより」、ホーム広報誌の「いずみだより」を地域の方々に回覧し、理解してもらえるよう努めている。	○	月1回実施している「きぬカフェ」を通して認知症教室等を開催したり、管理者自らキャラバンメイトとして講習している。これらの地域の方々に認知症の理解をしてもらう取り組みを継続して暮らしやすいまちづくりに繋げていくことにも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議で報告したり、ホームの玄関等に置いて来訪者に見てもらっている。今回の自己評価は管理者が中心となって職員と話し合いながら取り組み、管理者が記入し、全員で確認した。		

グループホームいずみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、地域代表、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。2ヶ月に1回開催し、入居者、家族にはすべての方に参加を呼びかけている。地域の中で入居者が楽しく喜びを持って生活を送るための活動など、参加メンバーから質問、意見、要望を受けながら、双方向的な会議となるように配慮している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険改正に伴う運営面の相談、現状にあったサービスの取り組み、質の向上等について市の担当者と話をしたりしている。	○	特別参加として市の担当者に運営推進会議に参画してもらったことがある。今後、運営推進会議に継続的に参加してもらったりしながら、市との連携を深めたり、一緒になって認知症ケアに取り組んでいく関係を深めていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回の食事会の際に、日常の写真、「きぬだより」等とともに暮らしぶりを報告している。健康状態についてはその都度報告をしている。預かり金については、金銭出納帳で管理し、家族に報告書を渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ISO認証事業所として年1回の家族アンケートを実施して「きぬだより」で家族、外部者に分析結果を公表している。また、運営推進会議に家族にも参画してもらい、行事等にも家族を誘うなど、意見をいえるような機会づくりに配慮して、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。入居者、家族への信頼関係ができており、安心した生活をしてもらえるよう努めている。また、職員は馴染みが馴染みにならないよう、常時、意識向上に努めている。		

グループホームいずみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ISOの活動計画の中で職員研修を計画化し、年間を通して研修の機会を設けている。外部講師を招いての法人主催の研修に参加したり、「力量評価シート」を参考に職員一人ひとりの現状を把握し、モチベーションを下げないよう働き掛けながら、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学、実習受け入れ等を積極的に行い、その際に意見交換などを行い、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人、家族と面接を行い、今一番気になっていることや困っていること、現在の本人の状態等を聞き、入居者の視点に立って柔軟に支援しながら、人間関係を徐々に築くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者と共に暮らす者同士として、不安、苦しみ、こだわり、哀しみ、喜び、楽しみなど入居者の思いに共感し、理解するようにしている。年長者である入居者から生活の技や文化の大事さを教えてもらい、お互い支え合う関係を築いている。		

グループホームいずみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で入居者の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は家族の意向も聞きながら、入居者の行動や表情から汲みとり、本人本位の検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用しながら、日々の生活の中で一人ひとりの課題となるものを抽出し、家族の要望なども取り入れて個別具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認定期間の計画書作成のほか、状態等に変化があったときはその都度、計画の見直しをしている。個々の介護計画記録と活動記録を分け、職員間で情報を共有しながら、日々の変化に応じた計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の意志決定を尊重し、要望があった時にはいつでも対応できるよう、同法人の他事業所との連携を取ったりして協力体制を整えている。	○	同法人他事業所との連携に加えて、他の事業所と連携も視野に入れているので、自主サービスを活かしながら必要に応じて他の資源を活用するなどしながら、更なる支援の充実を図っていくことにも期待したい。

グループホームいずみ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。専門医にかかる方もいるが家族の連携のもとで支援している。また、嘱託医と連携を図りながら健康管理を支援している。嘱託医の専門外の時には協力病院で適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの指針、マニュアルを作成し、すべての家族に説明している。嘱託医、家族、看護職と連携し、手順に従って支援できる体制になっている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目立たず、さり気ない言葉かけの対応方法（一人ひとりの解りやすい言葉、方言）等を個人別に把握して支援にあたっている。また、個人情報保護法の理解や個人情報の漏洩防止の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの「その日にしたいこと」を把握し、思い思いの日々が過ごせるように支援している。訪問時にも昼食後に自室に戻る方がいたり、職員と笑いを交えながら話をして過ごしている様子が見受けられた。		

グループホームいずみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と一緒に楽しく話をしながら同じ物を食べていた。献立は栄養士管理の下で作成するが、入居者主体に、その日の食べたい物を聞きながら作ることもある。入居者と一緒に下ごしらえや、後片付け等を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を基本に実施している。基本として午後(15:00)からとしているが、入居者の希望や要望によって時間帯を変えている。ケアの観点から夜間浴(19:00以降)の入浴支援も行っている。入浴が苦手な方には声かけの仕方などを工夫しながら入浴を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることに配慮しながら、活力を引き出す楽しみごとの支援をしている。絵手紙教室、手芸教室等に参加して、外に出る機会を多くし、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換、ストレス発散、五感刺激の機会として外出の支援をしている。日常の散歩、食材の買い物など職員と一緒にしている。また、年間行事として一泊旅行を計画したり、観光バス旅行にも参加している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りのもと、日中は玄関等に鍵を掛けていない。自由に出入りできる体制をとっている。訪問時にも散歩に出掛ける方がいたが、職員の見守りや声かけなどで安全を確認しながら支援している姿が見られた。		

グループホームいずみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の定期的な避難訓練に参加している。夜間想定での実施もされている。法人全体として地域の方々に協力を得られるよう連携をとっている。また、期限を確認しながら備蓄品も準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士の下で作成している。一人ひとりの好みの物を把握して栄養バランス等に気を配りながら支援をしている。食事、水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはソファが配置され、また、五感や季節感を意識的に採り入れる工夫がされている。一人ひとりが思い思いに寛げるよう「目隠し」の部分の配慮もされている。壁には入居者と職員の工夫を施した特大の絵（帯や布を小さく切り刻み、貼り付けた作品）など、立体的な装飾品があった。入居者が思い思いに居心地良く過ごしている姿が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、カーテン、洗面台、収納スペースが用意されており、テレビ、家具、その他の物は基本的に持ち込みができるようになっている。入居者一人ひとりの場所違いの工夫として、カーテン、壁紙、部屋の掲示板など、異なった物とする工夫をしている。花や写真等を飾って、入居者それぞれの思い思いの居室となっていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。